

末梢神経電気生理：運動ニューロン疾患及び末梢神経疾患の生理学的病態に関する研究

## 運動ニューロン疾患及び末梢神経疾患の生理学的病態解明および疾患バイオマーカーの探索

平成 25 年度から閾値追跡法を用いた神経軸索興奮特性測定検査を導入し、運動ニューロン疾患や自己免疫性末梢神経疾患の生理学的病態解明研究を行っている。

なかでも、筋萎縮性側索硬化症において運動神経軸索興奮特性は疾患予後の強いマーカーとして働くため、その測定を行い実際の患者の予後予測に臨床的に役立てると共に、その分子生物学的バックグラウンドを解明する研究を計画している。

また末梢神経の過剰興奮性がこれまで示唆されている各種神経疾患において検査を施行し、神経過剰興奮性の病態解明研究を行っている。この他にも各種神経疾患（神経変性疾患・神経免疫疾患など）で神経軸索興奮特性がバイオマーカーとして働くことはないか、広く探索を行なっている。また今後筋の興奮特性測定検査を導入する予定である。この他、各種末梢神経疾患及び運動ニューロン疾患のデータベース構築を進めている。

中里 朋子（金井 数明 客員准教授）